

## 富岡製糸場工女御雇入達【飯島（徳）家325】

第七十九号  
上州富岡ニ於テ製糸場稼業工女御雇  
入ノ儀ニ付先般被仰出ノ趣モ有之度  
猶又今般別紙ノ通御達相成儀ニ付テ  
ハ社送ノ旅費共官費ノ事ニテ其上製  
糸場活中へ家前御送ノ通等扱ニ應シ  
月給ノ支給下儀儀ニ付此邊草々相心  
得様ホニ無様ノ婦女ハ右場所ニ出向

指此上繪練致  
國家ノ御爲ノ心掛クヘシ且歸ルノ節  
ハ其土地ノ取扱トナリ産業ヲ引立儀  
採可取似事

但右出向望ノ者ハ米ル三十一日限  
住所人名年齢等詳細取調可申出候  
事

[読み下し文へ\(pdf\)](#)

日本初の官営工場である富岡製糸場では、1872(明治5)年に操業を開始し、工女を募集しました。これは、応募が少ないため、再度募集を促す文書です。往復の旅費も月給も支払われ、修練を積んで帰郷すれば、その土地の指導者となり産業を担うことになるのだから、応募するようにと呼びかけています。「国家のためを心掛くべし」とあることから、国家事業としての殖産興業が浮かび上がってきます。

## 製糸工場資金拝借懇願書【行政文書 明1505】

懇願書  
御管下事田大區三小區武蔵國高麗郡上廣瀬村  
下村泰作外十四名一同謹テ奉懇願候夫テ今  
富強ノ要務ノ工業ヲ興スル先テハ國家並家  
長ノ係ハ伏々惟ニル  
官初業ノ設ルルニ  
爲ト雖モ伺奉ヘ向テ製絲ノ義ノ海外ニ身懸テ  
貿易ニ最大ノ一品ニ事取リ候ノ事抑テ私共  
久々ニ御出向ノ出當御物産名譽ヲ願 旨ニ當如  
。表スル候間何年出格之次 御仁世前書之全頁  
送、拜借候 仰付支先松古、義、私共、所有不動産  
六千圓並、連日、候借ニ同遊書御返奉候儀也

御管下事田大區三小區  
武蔵國高麗郡上廣瀬村  
製糸工場資本金の借入  
下村泰作

明治十年五月廿日

清水宗徳  
山崎真徳  
清水豊三  
下村泰太  
木村茂太郎  
杉村文七  
飯島善七

県下初の器械製糸工場  
は、1877(明治10)年、  
上広瀬村(現狭山市)の  
清水宗徳(そうとく)が  
創業した暢業社(ちょう  
ぎょうしゃ)でした。有  
志の出資金と国・県から  
の勤業資金をもとに設立  
し、動力に水車を用いて  
いる点が、当時としては  
画期的な工場でした。輸  
出用の優良生糸の生産が  
中心で、その品位は富岡  
製糸場に匹敵したとい  
います。